

## 令和6年11月定例会 個人質問

高村の質問と理事者答弁の一部を抜粋して掲載しております。

### 子育て広場 運営団体の再公募

**Q** 本年7月に、子育て広場の運営団体を募集したが、片山・岸部地区、そして豊津・江坂・南吹田地区において、1か所ずつ不採択になっている。

現在、再公募中だが、利用者からは「仮に運営者が決まらなかった場合、地域から子育て広場が無くなってしまうのか」との心配の声が寄せられている。

仮に再公募が不調に終わった場合、吹田市として、新年度の子育て広場の運営をどのように確保するのか？

#### **A** 児童部長 答弁

今後、提供量が不足する場合は、再公募や必要な提供量の確保に努め、利用者には近隣の地域子育て支援サービスを案内するなど丁寧な対応に努める。

### 教職員の働き方改革と生成AI

**Q** 2月議会以降の、教育現場で生成AIの導入や活用に関する進展と、他市や国の取り組み動向を踏まえた、本市の対応や検討状況について問う。

#### **A** 教育監 答弁

今年度、画像生成機能があるアプリとAIアシスタント機能があるアプリを導入。

来年1月には小・中学校の教職員を対象とした、生成AIの基礎と導入したアプリの活用に関する情報教育研修を実施する予定。

教職員の業務改善につながる側面と、児童、生徒の学びに資する側面の両面から情報収集に努め、引き続き研究を進める。

### 教職員の働き方改革とPTA

**Q** 教職員のPTA活動への関与が、働き方改革の理念と矛盾が生じてはいけない。

PTA活動に、仮に教職員が関与しない場合の活動支援や、PTA側の負担軽減について、具体的な指針や活動の在り方について、働き方改革の観点から再定義するなど、時代に合わせた変革が必要ではないか？

#### **A** 教育監 答弁

PTA活動そのものについて、保護者及び教員の負担軽減につながる取組が進められる中、教育委員会としては、教員の働き方改革の方向性に沿って学校を支援することで、PTA活動がより効果的、効率的なものとなるよう促していきたい。



### STEAM教育

**A** STEAM教育を推進するうえで、企業や大学、研究機関など外部機関との連携が効果的であると考える。

そういった外部連携の意義や可能性について、教育委員会としての考えを問う。

#### STEAM(スティーム)教育とは

「STEAM教育」とは、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術 (Arts)、数学 (Mathematics) の頭文字を取った言葉で、これらの分野を横断的・統合的に学ぶ教育のスタイルを指します。この教育法は、21世紀の社会に必要とされる幅広い知識と、創造性、問題解決能力を育むことを目的としています。

#### **Q** 教育監 答弁

児童・生徒が各教科等で身につけた資質能力を実社会で問題発見、解決に生かしていく上で、企業や地域や企業や大学等の連携は大切であり、効果的な取組につながるものと認識している。児童・生徒の発達段階や地域の実情等に応じて、外部機関等との連携を図りながら、STEAM教育の狙いも含めた現代的な諸課題に対応して、求められる資質・能力の育成に努める。

### GIGAスクール構想における1人1台端末

**Q** これまで本市のGIGAスクール構想における1人1台端末は、中学生にはWindows端末を貸与しているが、令和7年度からの更新は順次iPadにしていく予算があがっている。

今回のiPad移行において、中学生への教育効果に関して、Windows端末よりも優れているという明確なエビデンスが提示されておらず、運用コスト削減といった“大人側の都合”だけが示されているように感じるが、本来、移行の真の目的は、生徒の学びの質の向上であるべきである。

中学校におけるSTEAM教育を推進するのであれば、iPadよりもWindows端末の方が適しているのではないか？

#### **A** 教育監 答弁

学習用端末の更新は、児童・生徒の個別最適な学び、協働的な学びを実現するための活用促進の観点から、アドバイザーを含む検討会議等での意見聴取を経て、OSを決定した。

それぞれのOSに特徴があることは認識しているが、小学校低学年から中学生まで、児童、生徒が発達段階に応じて、文房具としての日常的に活用できるものとしての更新を進めており、学習用端末を活用した探究的な学習や教科横断的な学習を進める中で、STEAM教育における効果的な活用についても研究を進めていく。

#### 高村の意見

今回の質疑で、iPadでしか実現できない学習があるからiPadに移行していく！といった言葉が聞きたかったが、特にそういった言葉もなく残念である。

GIGAの端末は、教育カリキュラムやSTEAM教育の目標に適合した「実用的かつ効果的なツール」であるべきという事を前提に、STEAM教育の多様な分野で求められる柔軟な学習環境を提供するのであれば、Windows端末の方が優れているのではないかと。GIGAスクール構想による1人1台端末の整備は、子どもたちの未来に対する投資であり、その重要性は疑う余地がない。だからこそ、今回の移行の真の目的が、コストではなく子どもの学びの質の向上であるべきである。

また、「端末の使用で学力低下」を説く方もいるが、テクノロジーの進化とともに測る物差しも変わらなくてはならない。つまり、過去の物差しで、今の子供たちの能力は正確に測れないということである。

時代に即した学びの成果を適切に評価する方法や、iPadとWindows端末の両方で端末使用による学力調査や効果検証について、吹田市として独自でも模索していくことを要望する。

